

第6分科会 リハビリテーション医学会

《会場および WEB 配信のハイブリッド開催》

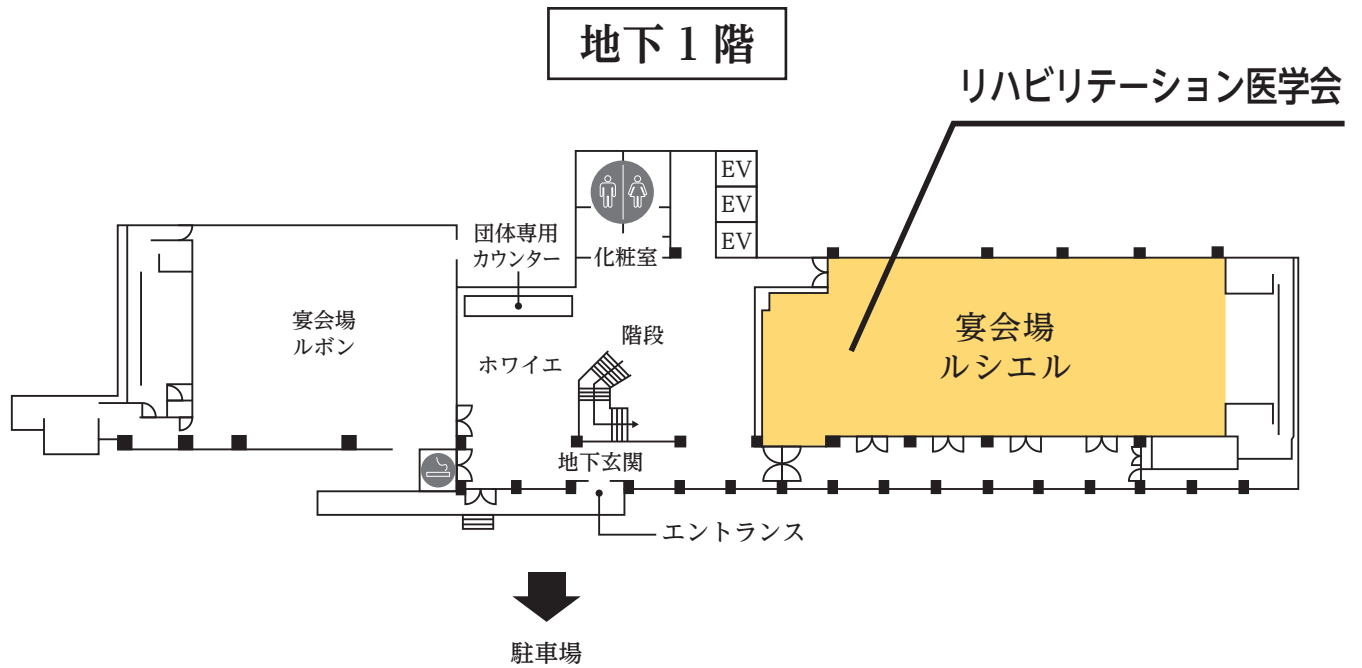
- ◇日 時：令和3年11月14日（日） 10：00～15：20
- ◇会 場：ノボテル沖縄那覇「ルシエル」
〒902-0062 那覇市字松川40番地 TEL：098-887-1111
- ◇開催方法：会場とWEB配信(ZOOM) ※事前申込制
申込方法については後掲参照
- ◇会 長：沖縄県リハビリテーション医学会・協会 会長 金谷 文則
- ◇単 位：単位詳細については後掲参照

－プログラム－

- 1) 特別講演Ⅰ（10：05～11：05）
座長：琉球大学病院リハビリテーション部 副部長 神谷 武志
演題：『四肢先天異常児のリハビリテーション 上肢を中心に』
演者：医療法人積発堂 富永草野病院 理事長 金谷 文則
- 2) 特別講演Ⅱ（11：10～12：10）
座長：医療法人積発堂 富永草野病院 理事長 金谷 文則
演題：『離島中核病院における試み
－リハビリテーション診療技術と視点を専攻医教育に取り組む－』
演者：沖縄県立宮古病院 病院長 本永 英治
「休憩」
- 3) 特別講演Ⅲ（13：10～14：10）
座長：医療法人緑水会 宜野湾記念病院 理事長 末永 正機
演題：『神経難病に対するリハビリテーション』
演者：独立病院機構 沖縄病院 副院長 脳神経内科部長 渡嘉敷 崇
- 4) 特別講演Ⅳ（14：15～15：15）
座長：リハビリテーションクリニックやまぐち 院長 山口 健
演題：『沖縄県における神経発達症のリハビリテーションの現状と課題』
演者：医療法人愛燦会 発達神経クリニック プロップ
理事長・院長 城間 直秀

現地会場フロアMAP

ノボテル沖縄那覇



単位一覧

特別講演項目	日本リハビリテーション医学会	日本整形外科学会	日医生涯教育 制度認定講座
特別公演Ⅰ	リハビリテーション科専門医 1 単位 認定臨床医 10 単位	N3、N13 または Re	CC10：1 単位 チーム医療
特別講演Ⅱ	リハビリテーション科専門医 1 単位 認定臨床医 10 単位	N13 または Re	CC1：1 単位 医師の プロフェッショナリズム
特別講演Ⅲ	リハビリテーション科専門医 1 単位 認定臨床医 10 単位	N8、N13 または Re	CC6：1 単位 医療制度と法律
特別講演Ⅳ	リハビリテーション科専門医 1 単位 認定臨床医 10 単位	N13 または Re	CC72：1 単位 成長・発達の障害

日本整形外科学会

N3(小児整形外科疾患) N8(神経・筋疾患) N13(リハビリテーション) Re(運動器リハ)

※日本リハビリテーション医学会・日本整形外科学会の単位をご希望の先生は

1 単位につき 1,000 円のお支払いをお願い申し上げます。

※日本リハビリテーション医学会の会期中の最大取得単位数は 2 講演分となります。

※当分科会へご参加いただくには、下記の URL または QR コードを読み取りの上、必要事項を入力し事前申込下さいますようお願い申し上げます。

※ WEB 視聴をご希望の先生へは、後日ご登録頂いたメールアドレスにご視聴用の URL をお送りいたします。そちらからご視聴頂けます。

URL：<https://forms.office.com/r/BtyTgZf2cu>

重 要：単位申請をご希望の先生方へ

【会場参加の場合】

- ・事前参加登録を必ず行ってください。
- ・日整会 IC 会員カードをご持参くださいますようお願い申し上げます。
- ・途中入室(開始 10 分以上経過)・途中退場されますと単位取得が認められません。

【WEB 参加の場合】

- ・事前参加登録を必ず行ってください。
- ・途中入室(開始 10 分以上経過)・途中退場されますと単位取得が認められません。
- ・ログ確認に必要となりますので、当日ご視聴の際は必ず①ご施設名②氏名フルネームがわかるようにログインし、カメラは ON にしてください。
- ・お支払い方法につきましては講演会終了後、沖縄県リハビリテーション医学会・協会事務局よりご連絡申し上げます。



特別講演 I

四肢先天異常児のリハビリテーション 上肢を中心に

医療法人積発堂 富永草野病院

理事長 金谷 文則

四肢先天異常、なかでも上肢先天異常は唇顎口蓋裂に次いで多い体表奇形であり、露出部であることから機能に加えて形態の再建も重要である。先天異常では患児に加えて両親の精神的な負担も大きく、過度な悲嘆や逆に患児を溺愛して自立を妨げる場合も見られる。一方、患児の適応力は極めて高く良好な機能を示すことが多い。四肢先天異常児のリハビリテーションにあたり必要な病態把握と成長段階に応じた治療計画について述べる。

特別講演 II

離島中核病院における試み ー リハビリテーション診療技術と視点を専攻医教育に取り組む ー

沖縄県立宮古病院

病院長 本永 英治

私の医療観は沖縄の離島での直接臨床経験から始まっている。身体所見を診療録に記載することのできる臨床能力は病（やまい）で苦しんでいる病人を理解する一歩であり重要な臨床能力である。身体所見の中でも徒手筋力評価は重力という目に見えない抽象概念を使用しながら筋力を理解していくという臨床技能能力を必要としている。私は独自の体位を考慮したベットサイドにおける徒手筋力評価を開発し、研修医や専攻医らへの臨床教育を通して、徒手筋力評価という身体診察能力が如何に習得できるか研究してきた。臨床の現場は複雑化しているために、基本的な徒手筋力評価ができれば全てが理解できるというわけではない。徒手筋力評価の上位には臨床運動学という学問があり、その理解に到達することで、リハビリテーション医はさらに優れた能力を持ち、家庭や地域におけるヘルスケアプロモーションとしての運動療法の指導者に到達できると考えている。39年間の医師生活のうち離島で33年間医療に関わってきた中で生まれたリハビリテーション医療の視点であり活動・研究報告である。

特別講演Ⅲ

神経難病に対するリハビリテーション

独立病院機構 沖縄病院

副院長 脳神経内科部長 渡嘉敷 崇

神経疾患では根治的治療が確立されていない疾患が多く、薬物療法にも限界がある。その観点からもリハビリテーションは患者のADL改善、維持のための重要である。近年、ボツリヌス治療やHAL（Hybrid Assistive Limb）を利用したリハビリテーションも行われている。我々は神経難病に対してのみならず、機能性神経疾患にもリハビリテーションによる治療を行っており、現状と今後の展望について述べたい。

特別講演Ⅳ

沖縄県における神経発達症の リハビリテーションの現状と課題

医療法人愛燦会 発達神経クリニック プロップ

理事長・院長 城間 直秀

平成17年4月に施行された発達障害者支援法で規定された発達障害という名称は、精神疾患の統計・マニュアルである DSM-5 で神経発達症という呼び名に変更された。自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症はその主座にあるが、知的障害や発達性協調運動障害が新たに含まれた。神経発達症のリハビリテーションとしては、感覚統合や視知覚機能訓練、ソーシャルスキルトレーニングなどがあるが、各施設で提供できることは限られており、放課後等デイサービスに丸投げされている部分もある。誰がどこでどう評価し、効果を判定していくか、非常に曖昧で、今後見直されるべきであろう。

